

## 除草2-1. 麦類除草剤

HRAC コード	成分名	商品名	多年 生雑草	一年 生雑草	一年 生雑草 (ツユクサ、カヤツリグ サキク、アブラムシ科を除く)	一年 生雑草 (イネ科を除く)	一年 生広葉雑草	スズメ ノテツ ポウ	県推奨使用時期	備考	
9	グリホサートカリウム塩	ラウンドアップマックスロード		○					耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	散布時の飛散に注意すること。	
			○ (イネ科)	○							
				○							は種後出芽前(雑草生育期)
			○ (イネ科)	○							
				○				収穫前日まで(雑草生育期)	①ほ場内の周縁部に使用する。 ②散布時の飛散に注意すること。		
9	グリホサートイソプロピルアミン塩	クサクリーン液剤 マイター液剤 草枯らしMIC		○					は種後出芽前(雑草生育期)		
22 22	ジクワット・パラコート	ブリグロックスL(毒)		○					は種前又は播種後出芽前		
5 15	プロメトリン・ベンチオカーブ	サターンパアロ乳剤		○					は種直後～麦出芽前	①早めに散布し、麦出芽後は絶対に使用しない。 ②極端に土壌が乾燥している場合は効果が劣る。 ③ノミノスマ、トゲミノキツネノボタンには効果が劣る。	
3	ペンディメタリン	ゴーゴーサン乳剤		○					は種後出芽前(雑草発生前)	①小麦については小麦除草剤の項参照 ②過湿条件では出芽抑制などが発生しやすいので使用しない。 ③汎用除草剤の項参照	
3	ペンディメタリン	ゴーゴーサン細粒剤F		○					は種後出芽前(雑草発生前)	①過湿条件では出芽抑制などが発生しやすいので使用しない。 ②覆土は2～3cm以上とする。 ③重複散布は薬害発生を招く。 ④水田裏作の麦に使用する場合、排水不良の畑では使用しない。 汎用除草剤の項参照	
3	トリフルラリン	トレファノサイド乳剤			○				は種後出芽前～3葉期 生育期(雑草発生前) (但し、収穫45日前まで)	①砕土、整地はていねいにする。 ②薬害を生じやすいので、覆土は必ず3cm以上とし鎮圧する。 ③土壌が過湿の場合は使用しない。 ④大麦では、砂壤土での使用を避ける。 汎用除草剤の項参照	
3	トリフルラリン	トレファノサイド粒剤2.5			○				は種後出芽前～3葉期 生育期雑草発生前 (但し、収穫45日前まで)		
23	IPC	クロロIPC		○					は種直後または2～3葉期	①覆土は3～4cmとする。催芽まきには散布しない。 ②晩播で越冬までに麦が5葉に達する見込みのない場合散布しない。 ③適用雑草は、スズメノテツポウ、スズメノカタビラ等イネ科冬雑草、ハコベ、ミノスマ、タネツバナ、ミヤナギ、苺類等 ④使用にあたっては播種または植付直後か、中耕施肥直後などの雑草発芽前後、または稚幼期に土壌処理とする。	
15	プロスルホカルブ	ボクサー		○					秋播栽培のは種後～ 麦2葉期(雑草発生前～ 発生始期)	麦類(小麦、大麦を除く)で登録あり。小麦、大麦については小麦除草剤、大麦除草剤の項参照。 注意事項は小麦除草剤の項参照。	
6	ペンタゾンナトリウム塩	バサグラン液剤(ナトリウム塩)				○			生育期(但し、収穫90日前まで)	麦類(小麦を除く)で登録。小麦については、小麦除草剤の項参照のこと。	
6	アイオキシニル	アクチノールB乳剤					○		穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	①イネ科雑草(スズメノテツポウなど)には効果はない。 ②降雨直前の散布を避ける。 ③展着剤は使用しない。 ④麦類では高薬量で使用すると葉枯れが発生する場合があります、150ml/10a前後の低薬量で使用が望ましい。 ⑤カラスノエンドウは2～3葉期までに散布する。	